

太陽誘電グループのCSR活動

CSR活動に対する基本的な考え方

当社グループは経営理念として、「従業員の幸福」「地域社会への貢献」「株主に対する配当責任」を掲げ、企業として、社会的責任を全うすることを経営の根幹としています。

企業は、企業のみでは発展できず、社会と一緒に発展していきます。当社グループの事業展開も日本から世界へと拡がり、多くの事業拡大のチャンスが生まれ、経済価値が高まる可能性をもちました。しかし、それとともに利害関係者が広がり、その要求や期待が広く、深くなっています。

当社グループは、企業としての経済価値を高めていくと同時に、利害関係者からの要求や期待に応え、社会的責任を果たすことで、社会的価値を高めていきたいと考えています。そのためには、製品の安全や品質はもちろんのこと、労働・人権、安全衛生、環境、倫理という企業内での取り組みにおいても、責任を持って活動しています。

CSR憲章

当社グループの経営理念を、より明確にステークホルダーの皆様へ表明するため、太陽誘電グループは「CSR憲章(太陽誘電グループ社会的責任に関する憲章)」を2005年に制定しました。社会から信頼され、愛されるために、人権を尊重し、あらゆる法令や国際ルールおよびその精神を遵守するとともに、高い道徳観、倫理観に基づき、社会的良識をもって行動します。

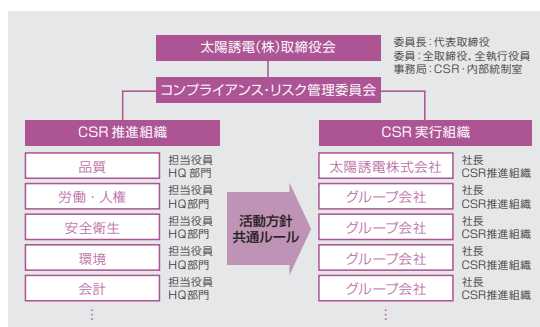
- 事業** ・社会的に有用な製品・サービスを安全性に十分配慮して開発・提供し、お客様の信頼を獲得します。
- ・事業活動が与える環境影響を低減し、地球環境保全に取り組みます。
- ・公正、透明、自由な競争を行うとともに、政治・行政、市民および団体との健全な関係を維持します。

- 人** ・多様性を理解し、あらゆる人々の人格、個性を尊重します。
- ・安心して働ける環境作りに努めます。

- 社会** ・各国、地域との調和を大切にするとともに、社会貢献活動に取り組みます。
- ・広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報の適時適切な開示に努めます。

CSR推進体制

太陽誘電グループのCSR活動は、代表取締役を委員長とし全役員が委員となるコンプライアンス・リスク管理委員会が全体を統括し、推進組織として行動規範の各条文や対象リスクごとに担当役員とHQ部門が選任され、そこから示される活動方針やグループ共通ルールに従い各グループ会社が実行する体制(コンプライアンス・リスク管理体制)によって運営されています。

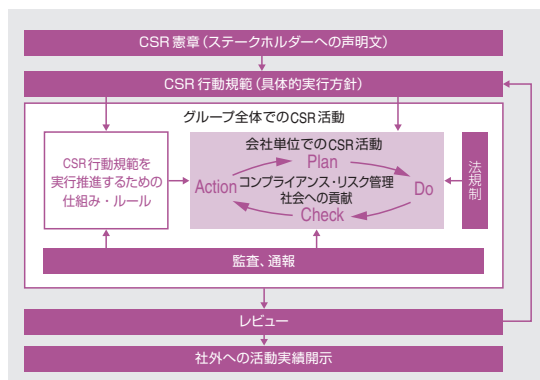


CSRマネジメントシステム

太陽誘電グループは、CSR憲章で示した内容の実現やCSR行動規範を順守するため、CSRマネジメントシステムを構築しています。

CSR行動規範および法規制の順守はもちろんのこと、CSR行動規範を実行推進するための仕組み・ルールを整備し、各社がPDCAによるCSR活動を実施しています。

この活動全体を内部監査と通報制度でチェック、年間活動実績のレビューを行い、活動の継続的改善を図っています。



具体的な活動・取り組み事例

CSRの周知・浸透

太陽誘電では、CSRの周知・浸透を図るため、積極的に教育を行っています。

「CSR行動規範」に対する理解をより深めてもらうために、行動規範を簡潔な文書とイラストで表現した「CSR行動規範ハンドブック」を作成し、全役員および従業員に配布しています。

また、経営幹部を対象とした外部講師セミナーや従業員を対象としたe-Learningなどを定期的実施するとともに、入社時・昇格時などのタイミングにおいても、対象者全員を集めて集合研修を行っています。

環境活動

当社グループは、かけがえのない地球を将来の世代に引き継ぐため、あらゆる事業活動における環境負荷の低減に取り組んでいます。

製品カット機の排水リサイクル

中紀精機株式会社では製品カット機からの排水をこれまででは処理、放流していましたが、フィルターでろ過して再利用することによって、水使用量を大幅に削減することができました。削減した水量は、約4,490t/年でした。

マングローブの植林

2008年度より太陽誘電（フィリピン）があるマクタン島に近いオランゴ島で、毎年1万本のマングローブの苗を植林しています。



マングローブの植林

社会貢献活動

地域社会や国際社会との共生を基本姿勢とし、工場見学会、地域や他企業との交流など、積極的な社会貢献活動を展開しています。

美化活動

太陽誘電グループの各拠点では、地域の清掃活動にも積極的に取り組んでいます。この活動は国内だけでなく、フィリピンでは、オランゴ島の海岸清掃を2012年に実施し、沿岸に流れ着いたゴミを81kg集めました。



オランゴ島での海岸清掃

地域交流

当社グループでは、地域の皆様との大切な接点のひとつとして、工場見学の受け入れを行っています。太陽誘電モバイルテクノロジー株式会社には、小学生約80名、高校生約20名が見学に訪れ、当社グループの事業活動や、工場で作っている製品についての説明を受けました。太陽誘電（フィリピン）には大学生が訪れ、環境保護技術の実践を学びました。また、28の団体から40名の代表者が訪れ、職場の安全実践を見学しました。



工場見学会

地域社会への寄付

当社グループでは、群馬県ならびに公益財団法人佐藤交通遺児福祉基金への寄付を行っています。佐藤交通遺児福祉基金は、太陽誘電株式会社の創業者である故佐藤彦八の寄付金をもとに設立されたもので、交通遺児への奨学金給付や交通安全教育活動などに活用されています。また、国内だけでなく、韓国における交通事故遺児基金の運営や小学校への寄付、中国での「SOSこどもの村*」への支援、フィリピンにおける福祉団体などへの寄付や、台風「パブロ」の被災者へ寄付など、海外拠点でも積極的に社会貢献活動を展開しています。SOSこどもの村：戦争や災害、伝染病や事故などによって親を亡くした子どもや助けを必要としている子どもたちを支援している、国際的な児童福祉団体



台風「パブロ」での被災者への支援活動

安全衛生活動

太陽誘電グループでは、従業員が安心して働ける職場を追求するため、グループ共通の中期計画を設定して、労働災害防止に向けた活動を実施しています。

火災爆発の防止

湿度管理、設備の防爆化、治工具や人体からの静電気除去などの総合的な対策を展開し、化学物質による火災爆発の防止を図っています。

さらに詳しい情報については、当社のCSRホームページや「安全・環境報告書」をご覧ください。